

情報連絡員報告・3月分

目前に迫った消費税「総額表示」の対応に苦慮

～製造業の「業界の景況」DIも水面間近か～

<東京都中央会>

3月の情報連絡員報告によると、目前に迫った消費税「総額表示」への対応に苦慮する報告が寄せられた。また、数値面では製造業の「売上高」の前年同月比DIが今月もプラスになり24.6を記録した。これに続くように製造業の「業界の景況」のDIも水面すれすれの-1.5で、もうすぐ水面に届くところまで来ている。非製造業はまだ水面下であるが、製造業の後を追う形で回復の兆しを見せている。今後の動向が楽しみである。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

<特記事項欄より>

和服裁縫=4月から実施される消費税の総額表示を前に、業者が取引先からもらう加工表で消費税分が値下げになってしまうのではないかと懸念しています。

帽子製造=若者に帽子(ニット、キャップ、ハット)が定着し、ヤング商品は安定定番になりつつある。ミセス(中高年婦人)にも帽子は人気があり、高額商品が売れている。あとはメンズ(中高年紳士)に被ってもらうことを期待している。

潤滑油製造=原油価格は高水準で推移し、引き続き高値が見込まれており、

末端価格への転嫁が急務な情勢となった。

ネジ類製造=材料値上げが加速している。原因は中国の旺盛な鋼材需要にある。ユーザーからのコストダウン要請は厳しく採算性を圧迫している。

金属熱処理=15年春頃から需要が順調に回復してきているが、ここに来て鉄鋼等の値上がりのしわ寄せが熱処理にくるとの懸念が業界内に高まっている。たとえば、自動車部品メーカーが鋼材の値上がりをいくらかでも少なくするために、熱処理に値下げを要求する可能性がある。

電線製造=3月の荷動きは一部品種を除

き、全般的に活況を呈している。ただ、工専用電線だけは今年は銅価急騰もあり例年の年度末需要が2月で先食いされた影響が出ている。機器用電線は携帯電話向けの極細同軸ケーブルなどの動きが絶好調である。

配電盤製造=受注量は前年並みの気配だが、一部に4月以降も受注確保の動きも見られる。単価が低く競合は依然厳しいものの、合理化努力で吸収も見受けられる。素材の値上がりが気がかりである。

自動車部品製造=トラックの排ガス規制特需のお陰で業績が大きく改善され、一息ついたところです。逆に来月からは、この特需後の影響で受注量が大幅に急減するため、特需のために雇用した臨時雇用者の解雇や経費削減等、後ろ向きへの対応に切り替えなければなり

ません。

塗装業=業界としてプラス傾向が出てきたのはここ数年来今月が初めてである。海外シフトにより、顧客の半数は業績が悪くない。業界としては、簡単な仕事は壊滅状態である。

< 要望事項欄より >

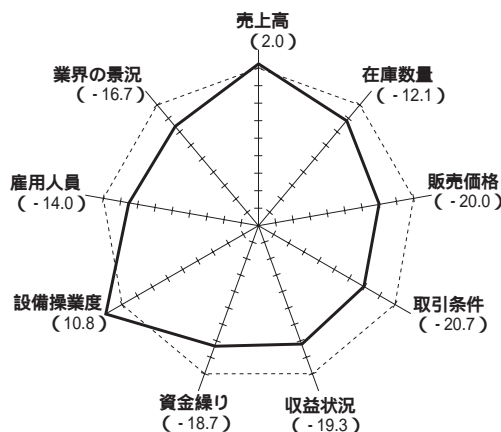
* 世界的な大豆の不作で価格が高騰している。国産大豆はじめ、シカゴ相場では前年の2倍以上で16年ぶりの高値である。いろいろな要因があるようだが、早く安定して欲しい。4月からの消費税総額表示にも大変苦労している。

[豆腐製造小売]

* 工程管理表などの名目で吸い上げたノウハウを無償で海外に流さないで欲しい。工程管理表を勝手に流した場合には、法律で厳重な罰則を設けて欲しい。

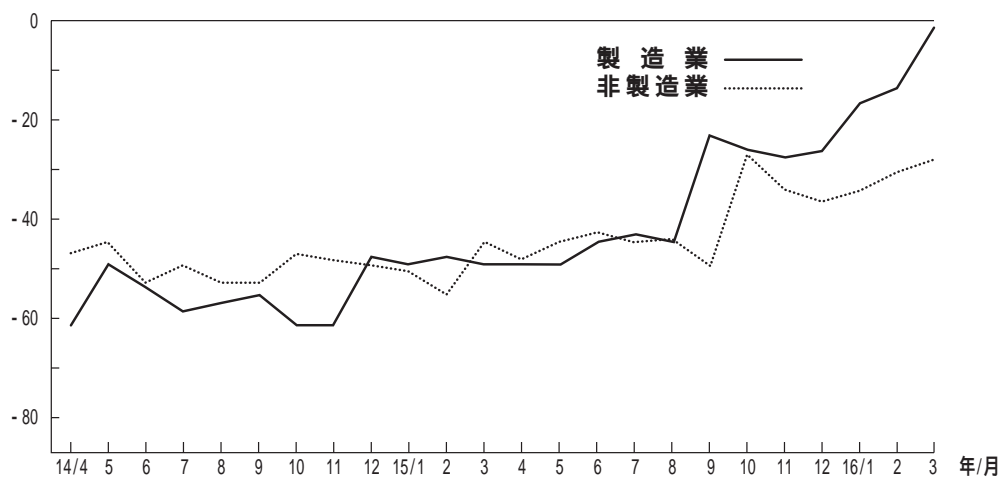
[工業塗装]

3月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)

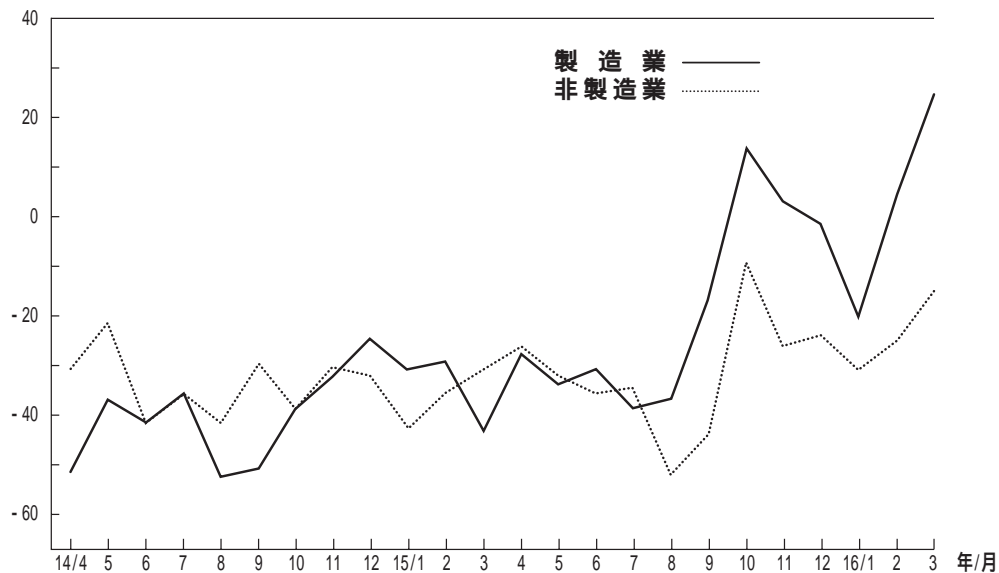


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化（H14.4～H16.3）
（前年同月比）



売上高DIの変化（H14.4～H16.3）
（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。